

# くらしも、福祉も 不十分です。

2020年度  
東京都予算  
15兆円



小池知事が編成した2020年度予算は、くらしも福祉も不十分です。値上げが続く国民健康保険料(税)の新たな負担軽減策はなく、都営住宅の新規建設は、石原都政以来21年間ゼロが続いています。一方、1メートル1億円の外かく環状道路建設を相変わらず推進し、まちの分断・立ち退きなどに多くの住民が反対している特定整備路線の道路建設に561億円もの予算をつけています。共産党都議団は、予算のわずか1.7%を組み替えるだけで、国保料(税)やシルバーパスの負担軽減、認可保育園や特別養護老人ホーム増設をはじめ、80項目におよぶ福祉・子育て・教育・防災などの都民要求実現ができることを示した予算組み替え提案をおこないました。

## 高齢者介護



「長寿」掲げながら  
軒並み減額

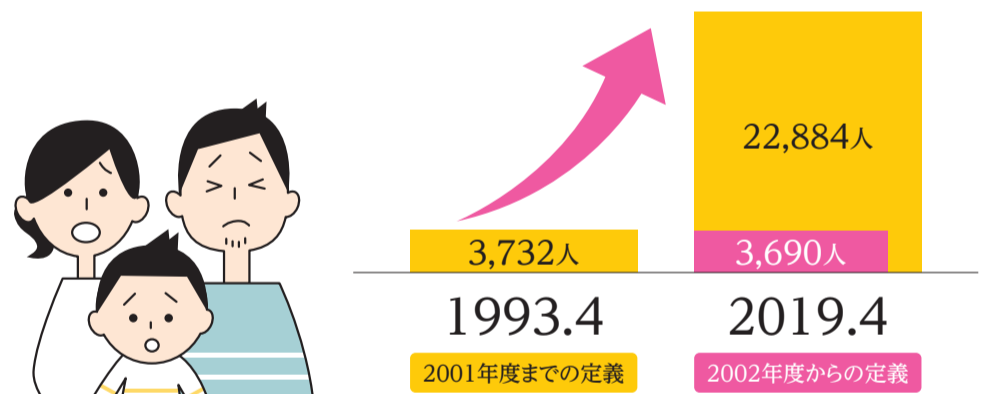
特養ホーム整備費  
補助 **29.38**億円減  
164.74億円→135.36億円

認知症グループホーム  
緊急整備 **2.28**億円減  
21.34億円→19.06億円

老健施設整備 **9.60**億円減  
22.29億円→12.69億円

## 待機児童

知事は「四半世紀ぶり」というが…  
実は、6倍に

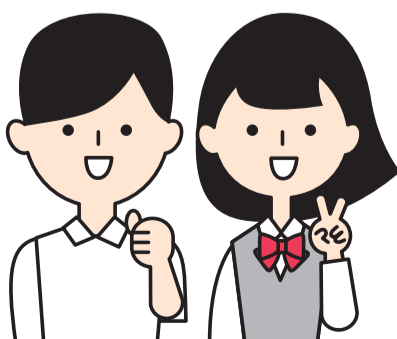


小池知事は、保育園の待機児童が『四半世紀ぶりの水準』になったと誇っています。ところが、国は2002年度から待機児童の定義を変更しており、当時の数え方だと実は6倍に増えています。しかも、知事は定義の変更を『承知している』と議会で答弁しました。日本共産党都議団は、いわゆる『隠れ待機児』を含めた約2万3千人の待機児童ゼロの実現に向け、認可保育園のいっそうの増設を求めています。

## 共産党都議団 2つのゼロ円条例を提案

### 私立高校入学金

年収350万円未満世帯の生徒の入学金を無償とする提案です。すでに多くの県で実施されています。今年度実現した私立高校の授業料無償化の年収910万円までの拡大と併せ、実現を求めました。



### 国保子どもの均等割

0歳の赤ちゃんもふくめ、すべての家族にかかる国民健康保険料・税の均等割の負担を軽減する提案です。全国知事会も国に改善を求めています。国に先駆けて東京で実現を呼びかけました。

